夢アイデアまちづくりに関する提案　応募

「食べ物の好き嫌いがない町」

ぼくは食べ物の好き嫌いがタクさいと言われています。実際学校の給食は食べられない物がタクさんでした。他の人にこれが食べられないと伝えるのは恥ずかしいし残したら作った人に悪いと思ったからです。そこでぼくは食べ物の好き嫌いがなくなったらいいなと考えました。そしたらみんなと一緒に楽しい食事ができるからです。だれでも好き嫌いなく食べられるには食べる人の味覚が変われればいいと考えつきました。どんな食べ物を食べても人の食べたいと思う好きな物の味に変化するのです。見た目ももちろん大事です。見た目や盛り付けはドラえもんの秘密道具のようにボタン一つで自由自在に変えられたら町中の人が喜ぶと思います。もしこの町が出来たらぼくはトリカツが食べたいと思いました。

20×20

企画の活字化と注釈

題名　食べ物の好き嫌いがない町

　ぼくは食べ物の好き嫌いが多いと言われていいます。実際、学校の給食は食べられないものが多かったので困りました。他の人に、「これが食べられない」と伝えるのは恥ずかしいし、残したら作ってくれた人に悪いと思ったからです。
　そこでぼくは、食べ物の好き嫌いがなくなったらいいなと考えました。そしたらみんなと一緒に楽しい食事ができるからです。誰でも好き嫌いなく食べられるには食べる人の味覚が変わればいいと考えました。どんな食べ物を食べても、その人の食べたいと思う好きな物の味に変化するのです。見た目ももちろん大事です。見た目や盛り付けはドラえもんの秘密の道具のようなボタン一つで自由自在に変えられたら町中の人が喜ぶと思います。もし、こんな町が出来たらぼくはとんかつを食べたいと思いました。

注：この子は自閉症スペクトラムで、両親の作った料理しか食べられず、給食はおろか、放課後等デイサービスで出されるお菓子ですら食べられません。いつも一人で過ごしていて、学校は不登校が多くなっています。放課後等デイサービスは家庭のような雰囲気になれるのか毎日来てますがやはり一人です。
　そんな子ですが、この子は、好き嫌いなく何でも食べられ、人との交わりを望んで、この企画を作ったのだと思います。